記者発表資料

令 和 6 年 9 月 11 日
国土交通省東北地方整備局

東北地方の河川流況が回復

～ 6ヶ月にわたる渇水対策本部（注意体制）を解散 ～

今年の記録的な少雪により、春先の水利用（水田等）や河川環境への影響が懸念されたため、東北地方整備局では 3 月 14 日に渇水対策本部（注意体制）を設置し、関係機関と連携しながら渇水対応を行ってきました。

東北地方の各水系においては、水需要の高まるかんがい期間が概ね終了し、河川の流況も例年並みに回復していることから、9 月 11 日に渇水対策本部（注意体制）を解散しました。

各水系の渇水情報連絡会等における情報共有やダム運用の工夫、利水者による節水、河川監視の強化など、関係機関と連携して渇水対策に取り組んだ結果、重大な渇水被害は回避されました。

＜東北地方整備局における渇水対応＞

令和６年 ３月１４日　渇水対策本部（注意体制）　設置
令和６年 ９月１１日　渇水対策本部（注意体制）　解散　182 日間（過去最長）

＜渇水対応のポイント＞

○ 例年より早い時期（３～４月）に渇水情報連絡会を開催し、関係機関との情報共有を行うとともに、直轄管理ダムにおいて、例年より少ない雪解け水を想定した貯水位運用の工夫を実施。

○ 北上川水系江合川の鳴子ダムでは、4～6 月のダムへの流入量が管理開始以降 67 年間で最小（例年の約 60%）だったが、関係機関と連携した渇水対応によりかんがい用水を確保することができ、宮城県内有数の穀倉地帯である大崎耕土の水稲の生育に大きく寄与。

○ 春先の水利用を融雪に多く依存する地区では、農業用水が不足するおそれがあったが、柔軟な水利用の対応により、今年のかんがい期を無事に乗り切った。

＜発表記者会＞青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、秋田県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者クラブ、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会

[本件に対するお問い合わせ先]
国土交通省 東北地方整備局 河川部 河川環境課
課　　長 大平（おおだいら） 知秀（ともひで）（内線３６５１）
課長補佐 菊地（きくち） 純（じゅん）（内線３６５６）
仙台市青葉区本町３－３－１ 仙台合同庁舎Ｂ棟
TEL 022-225-2171（代） FAX 022-215-3754

別 紙

東北地方における渇水対応（概要）

1．東北地方の今冬の気温・積雪状況及び少雪対応（別紙 1 参照）※出典：気象庁 HP より

○東北地方の今年の冬は、平年よりも気温が高く少雪傾向となっており、令和 5 年 12 月から令和 6 年 2 月までの平均気温平年差は＋1.7℃、降雪量の期間合計の平年比は 67%（日本海側は 52%、太平洋側は 79%）でした。

○このため、東北地方整備局では例年より早い時期（３～４月）に渇水情報連絡会を開催し、関係機関との情報共有を行うとともに、直轄管理ダムにおいて、例年より少ない雪解け水を想定した貯水位運用の工夫を実施しました。

2．東北地方の４月以降の気温・降水量（別紙 2 参照）※出典：気象庁 HP より

○東北地方の４月から７月の平均気温平年差は、＋1.5℃から＋3.6℃となっており、いずれの月も平年より気温が高い状況でした。

○降水量平年比は、４月から６月は 79%から 93%と平年より少なく、７月は 145%で多い状況でした。

3．渇水対応について（別紙 3 参照）

○少雪・少雨の影響により基準流量を下回った３水系（２事務所１ダム）においては、渇水対策支部（注意体制）を設置し、関係者と連携した渇水対応（毎日の取水報告、利水者による節水、河川監視の強化）を行いました。

4．鳴子ダムの利水補給状況（渇水対応）（別紙 4 参照）

○北上川水系江合川の鳴子ダムでは、春季（4～6 月）の降水量が例年と比べて約 25%少なく、ダムへの流入量は約 43%少ない状況でした。

⇒ ４～６月のダムへの流入量は、管理開始以降 67 年間で最小。

○しかしながら、関係機関と連携した渇水対応（岩堂沢ダムとの流量調整、利水者による節水、関係者との情報共有等）によりかんがい用水を確保することができ、宮城県内有数の穀倉地帯である大崎耕土約 10,000ha の水稲の生育に大きく寄与しました。

5．農業用水確保のための対応について（別紙 5 参照）

○春先の水利用を融雪に多く依存する地区では、農業用水が不足するおそれがあったことから、柔軟な水利用の対応により、今年のかんがい期を無事に乗り切りました。

【参考】令和６年東北地方整備局渇水対策に関するこれまでの記者発表

・令和 6 年 3 月 12 日記者発表「今冬の少雪傾向を踏まえ渇水対策本部(注意体制)を設置します」
https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/kisya/kisyah/images/98404_1.pdf

・令和 6 年 4 月 24 日記者発表「平年より 3 週間程度早く雪解け」
https://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/kisya/kisyah/images/98819_1.pdf

・令和 6 年 5 月 27 日記者発表「鳴子ダムの貯水率低下により江合川で注意体制設置」
https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/kisya/kisyah/images/99459_1.pdf

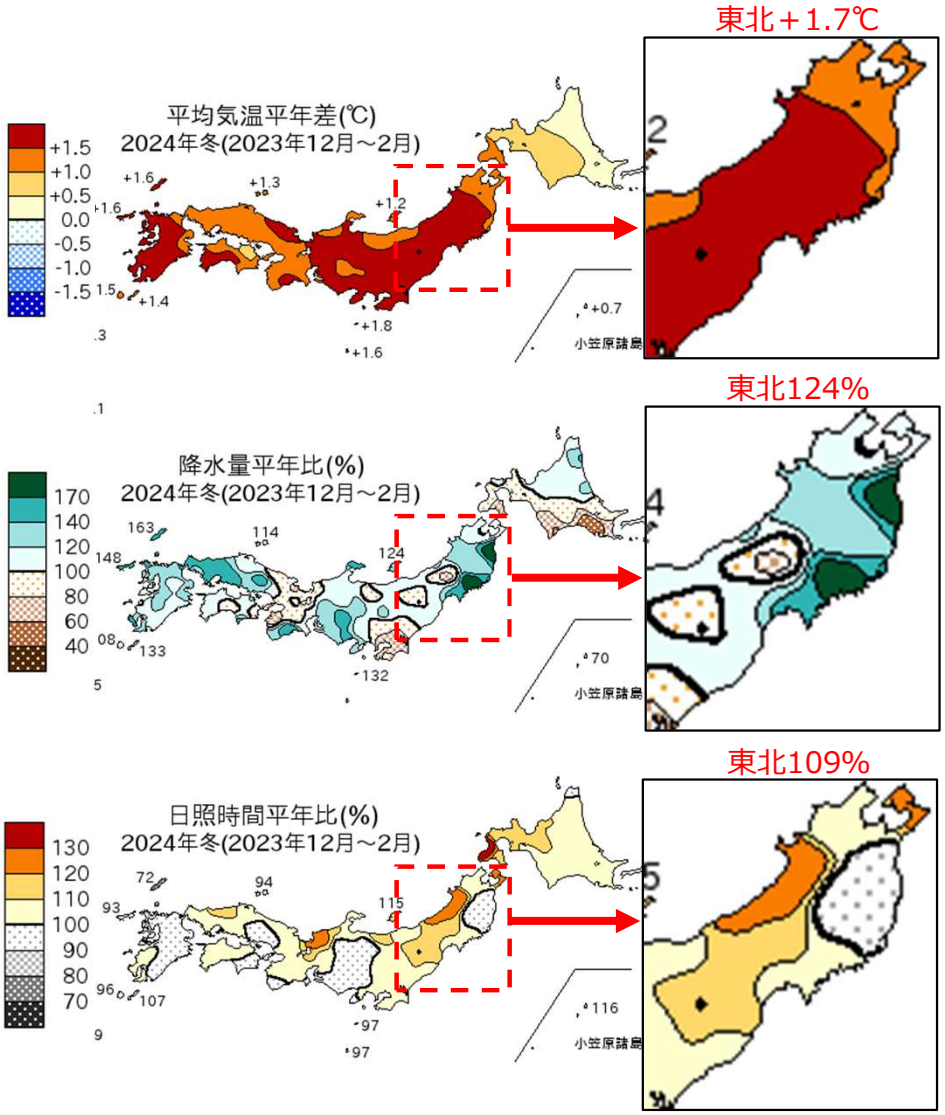
・令和 6 年 6 月 25 日記者発表「少雨によりダム貯水率が低下」
http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/kisya/kisyah/images/99675_1.pdf

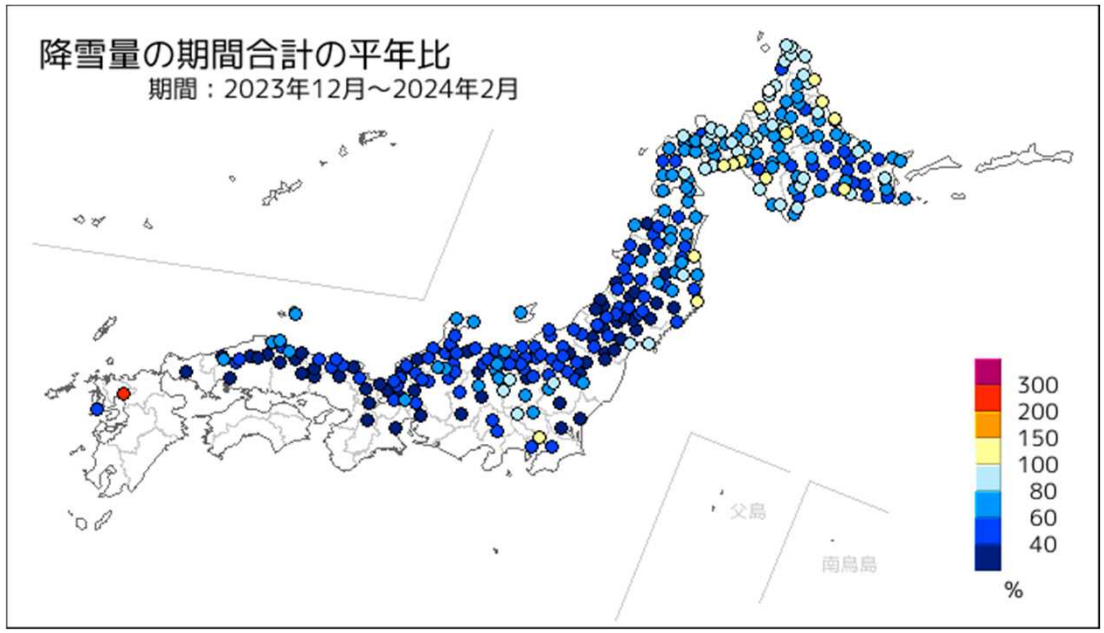
1．東北地方の今冬の気温・積雪状況及び少雪対応

別紙１

- 東北地方の今年の冬は、平年よりも気温が高く少雪傾向であり、令和5年12月から令和6年2月までの平均気温平年差は＋1.7℃でした。
- 降雪量の期間合計の平年比は67%、日本海側は52%、太平洋側は79%でした。

平均気温平年差、降水量平年比、日照時間平年比の分布





2024年3月1日作成

2024年 冬	平均気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)	降雪量 平年比 %(階級)
東北	+1.7(+)*	124(+)	109(+)	67(-)*
日本海側		102(0)	115(+)	52(-)*
太平洋側		138(+)	105(+)	79(-)

出典：気象庁HP　令和6年3月1日公表（2023年～2024年の冬（12月～2月）の天候）

1．東北地方の今冬の気温・積雪状況及び少雪対応

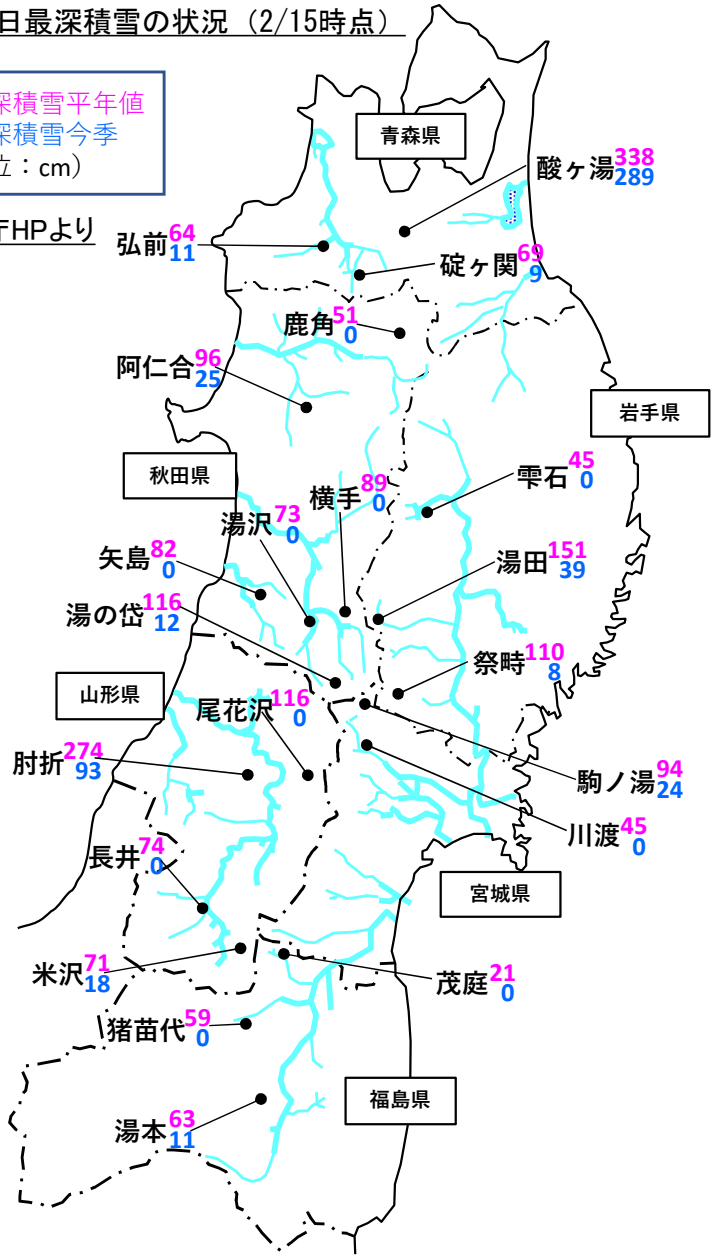
別紙１

- 日最深積雪は、ほとんどの地点で平年を下回り、日最深積雪の平年ピーク頃である2月15日の日最深積雪がゼロの地点もある状況でした。
- 令和6年2月15日時点の東北直轄ダム積雪深平年比（直近5ヶ年平均）の平均は43%であり、最も多いダムで91%、最も少ないダムで0%でした。

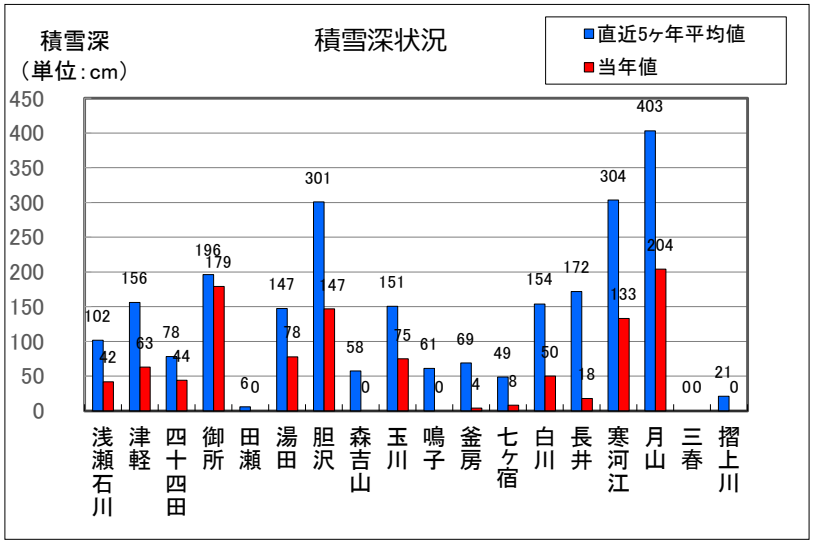
日最深積雪の状況（2/15時点）

凡例：観測地点　日最深積雪平年値　日最深積雪今季（単位：cm）

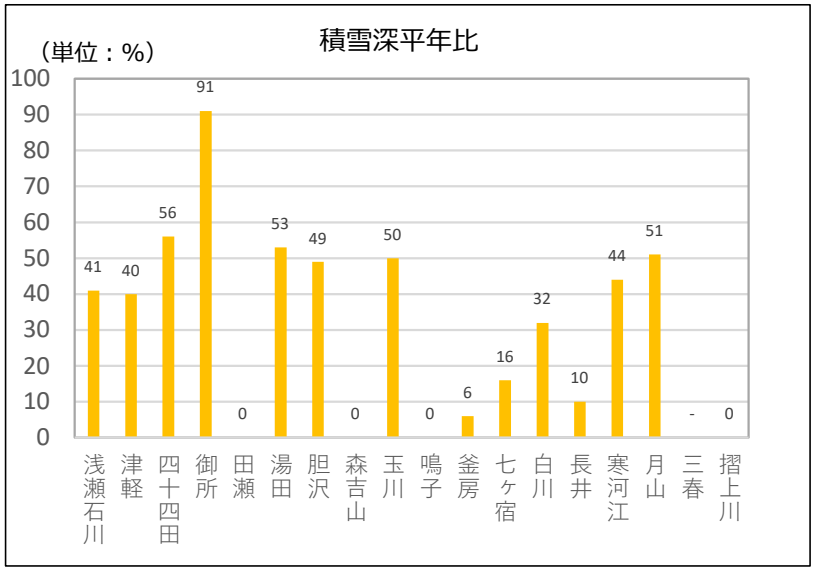
※積雪データは気象庁HPより



東北直轄ダム（18ダム）積雪深と平年比（2/15時点）



東北直轄ダムの積雪深平年比平均（%）＝当年値地点合計(cm)/平年値地点合計(cm)
43%　＝　1,045cm　/　2,428cm



１．東北地方の今冬の気温・積雪状況及び少雪対応

別紙１

○渇水情報連絡会の開催について

- 例年、新年度の第一四半期内に渇水情報連絡会を開催しています。
- 今年の冬は、平年よりも気温が高く少雪傾向が続いており、融雪に大きく左右される4月から6月期の河川流量が大きく低下することが懸念されるため、例年よりも早い時期の3月から4月にかけて渇水情報連会を開催し、関係機関において、水系内の河川流量等について早めの情報共有を行いました。

○各水系渇水情報連絡会開催日

水系名	県名	開催日	担当事務所
岩木川	青森県	3月22日	青森河川国道事務所
馬淵川	青森県	3月22日	青森河川国道事務所
高瀬川	青森県	3月25日	高瀬川河川事務所
北上川(上流)	岩手県	3月22日	岩手河川国道事務所
北上川(下流)	宮城県	3月22日	北上川下流河川事務所
鳴瀬川	宮城県	3月22日	北上川下流河川事務所
名取川	宮城県	3月21日	仙台河川国道事務所
阿武隈川(下流)	宮城県	3月21日	仙台河川国道事務所
米代川	秋田県	3月22日	能代河川国道事務所
雄物川	秋田県	3月25日	湯沢河川国道事務所
子吉川	秋田県	3月25日	秋田河川国道事務所
最上川	山形県	3月22日	山形河川国道事務所
赤川	山形県	3月22日	酒田河川国道事務所
阿武隈川(上流)	福島県	4月16日	福島河川国道事務所

【各水系渇水情報連絡会開催状況】

令和6年3月21日阿武隈川（下流）及び名取川水系

令和6年3月22日北上川（下流）水系

【参考】

渇水情報連絡会とは

１）目的

河川管理者、気象台、各利水者の関係機関が渇水に関して情報交換を行い、円滑な水利用ならびに河川環境の保全を図ることを目的としています。

２）構成

・河川管理者（東北地方整備局、県）

・気象台

・利水関係機関（東北農政局、県・市町村農林部局、水道事業者、発電事業者　等）

３）主な議題

①気象概況・積雪状況、今後の気象予報等

②各河川の流量状況

③各ダムの貯水位運用等

④連絡体制の確認、各利水者からの情報提供　等

【令和6年3月14日渇水対策本部（注意体制）設置に関する説明会開催状況】

○直轄管理ダムの貯水位運用の工夫について

別紙１

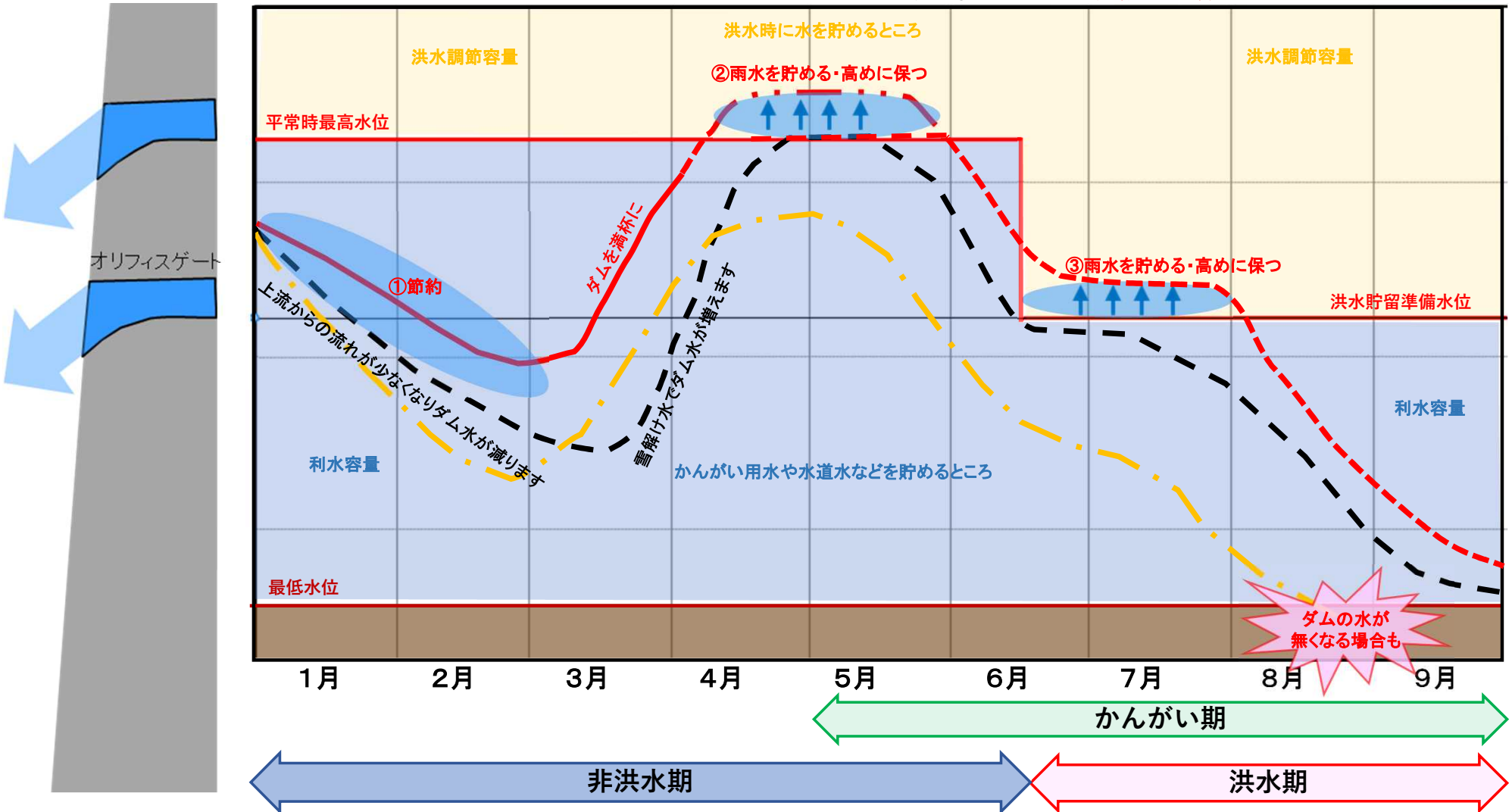
かんがい用水や上水道に安定供給を行うため、例年より少ない雪解け水を想定した工夫を実施。

① 例年より雪解け水が少ないため、冬期の水の使用量を節約し、ダムを満杯にする。

② 雪解けが早く終わるため、ダムで貯め込んだ水が減らないよう、雨水もしっかり貯める。

③ ダムで貯め込んだ水が減らないよう水位を高めに保つように配慮しますが、洪水が予測された場合は、洪水調節に支障がないように水位を下げる。

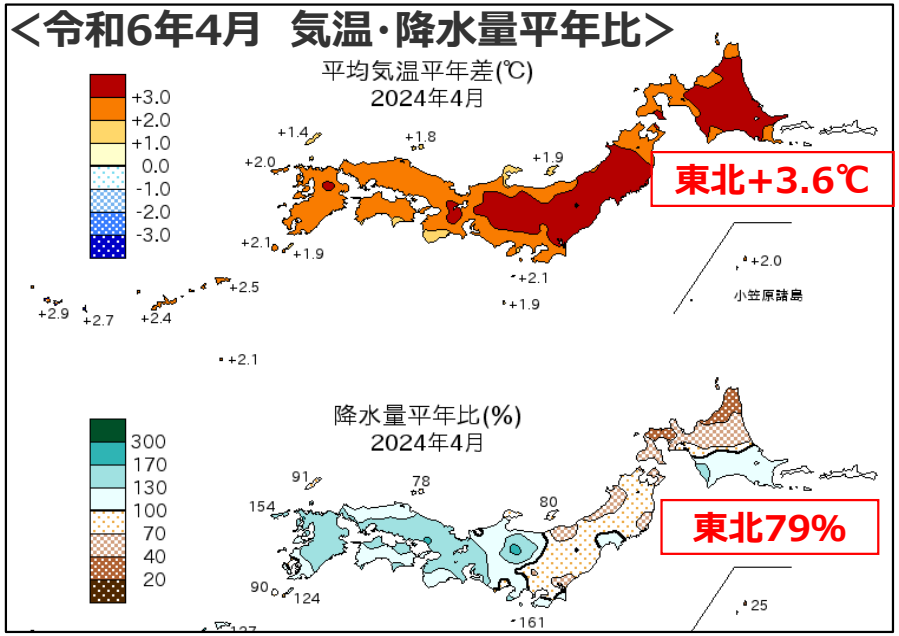
ダム貯水位運用曲線の例

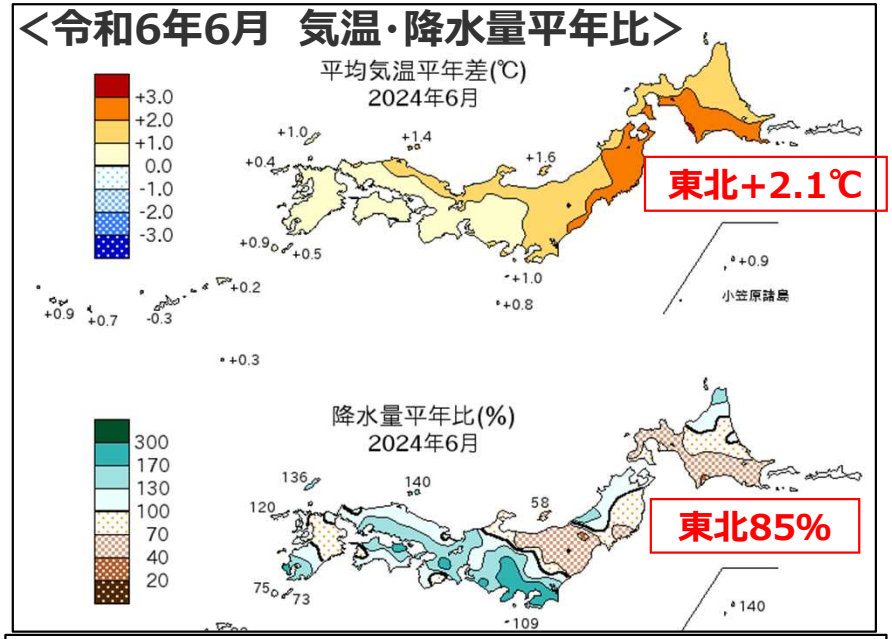


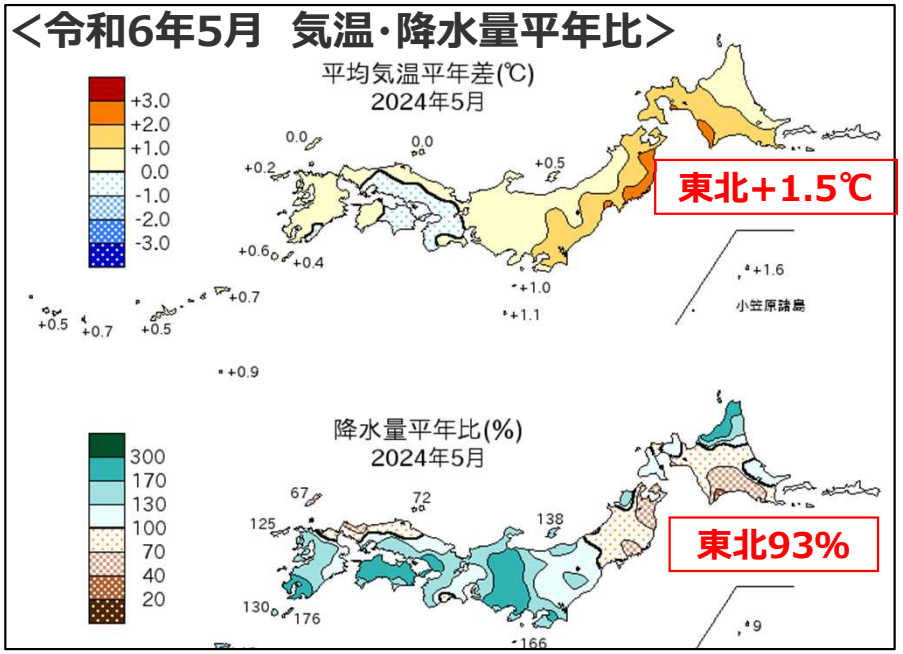
2．東北地方の4月以降の気温・降水量

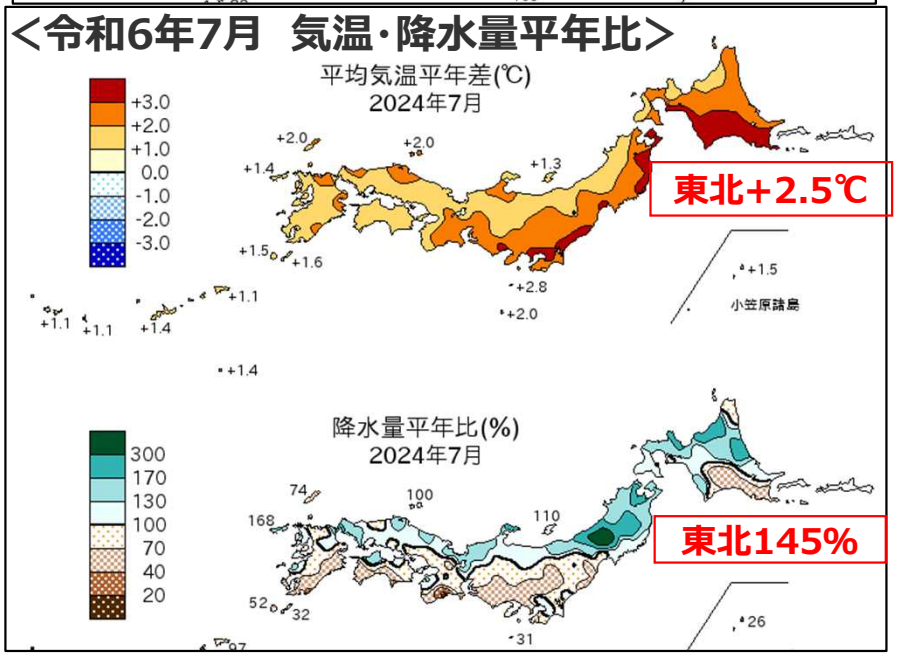
別紙２

- 東北地方の4月から7月の平均気温平年差は、 ＋1.5℃から＋3.6℃となり、いずれの月も平年より気温が高い状況でした。
- 降水量平年比は、4月から6月は79%から93%と平年より少なく、7月は145%で多い状況でした。









出典：気象庁HP　2024年4月,5月,6月,7月の天候

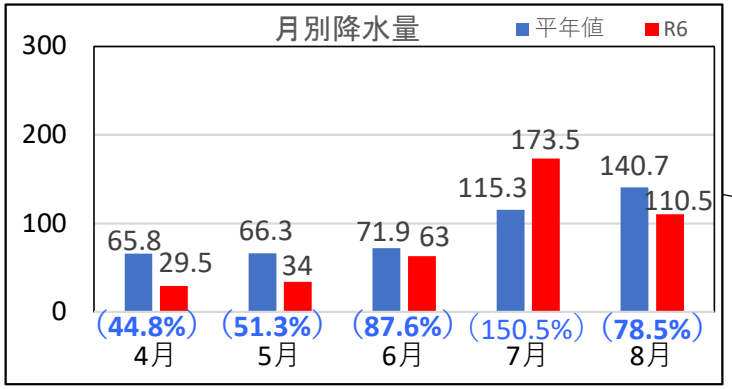
2．東北地方の4月以降の降水量

別紙２

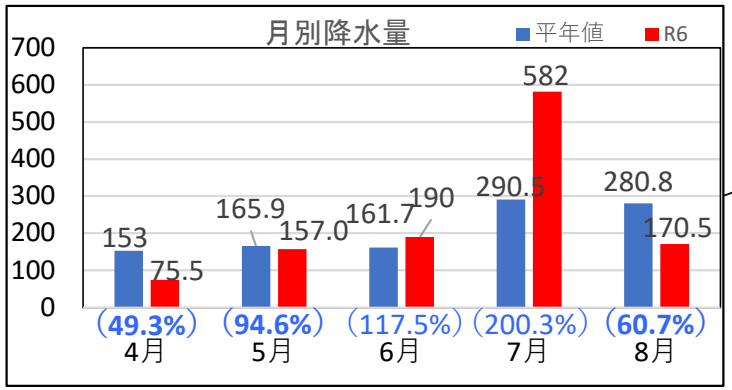
➢ 直轄管理ダムの近傍地点における4月から6月の降水量は、平年よりも少ない月が多い状況であり、少ない月で平年の4割程度となりました。7月の降水量は、ほとんどの地点で平年以上の降水量となりました。

※グラフ中(●●%)は、
R6降水量÷平年値降水量×100
太字は100%以下の数値

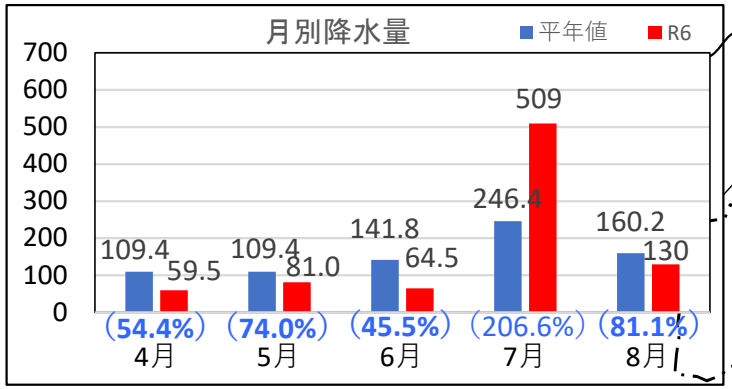
弘前地点（青森県 津軽ダム付近）降水量

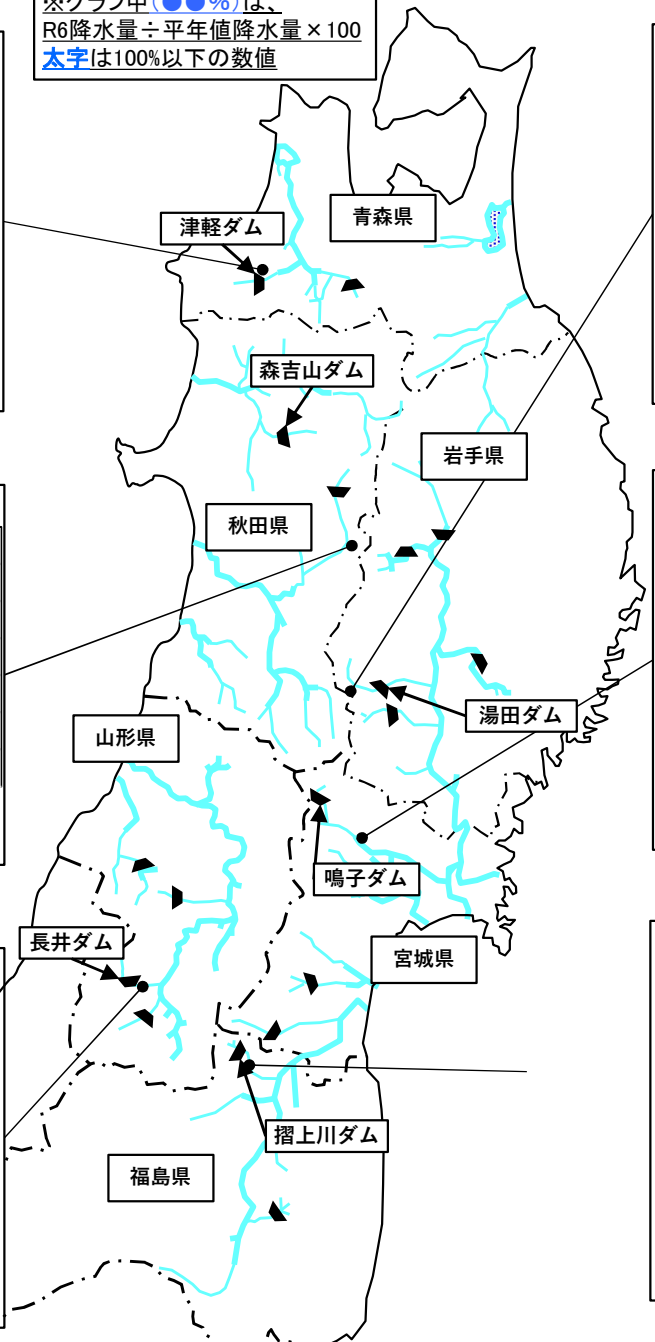


田沢湖地点（秋田県玉川ダム付近）降水量

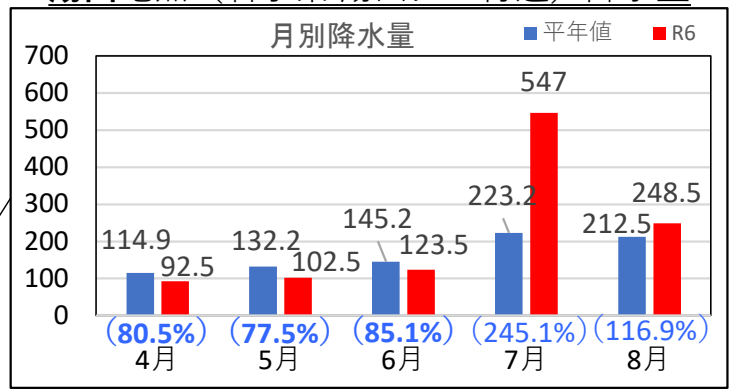


長井地点（山形県 長井ダム付近）降水量

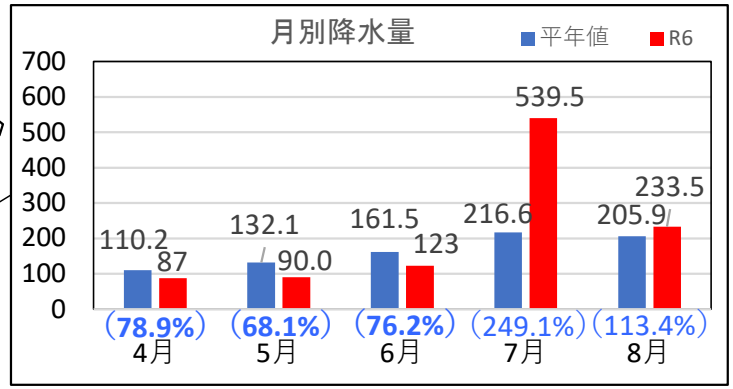




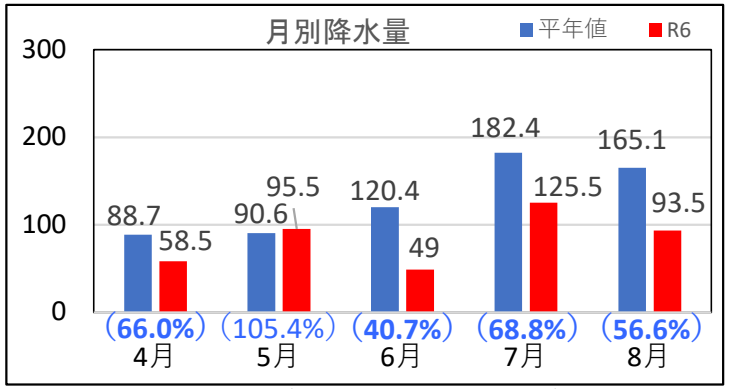
湯田地点（岩手県 湯田ダム付近）降水量



川渡地点（宮城県 鳴子ダム付近）降水量



茂庭地点（福島県 摺上川ダム付近）降水量



※各県1地点ダム付近の気象庁観測データにて作成

３．渇水対応について（その１）

別紙３

- 河川流況が厳しくなった６水系（８事務所５ダム）において、渇水情報連絡会を開催し、関係機関との情報共有・緊密な連携をはかりました。
- また、渇水傾向にあった４ダムにおいて利水調整会議を開催し、ダム下流の利水者に対し今後の取水状況やダムからの放流量調節ついて協議・調整を密に行いました。

■渇水情報連絡会開催状況

※太文字は、渇水対策支部体制設置

水系名	事務所名	開催日
北上川（下流）	**北上川下流河川事務所 鳴子ダム管理所**	**5月23日 7月18日**
鳴瀬川	**北上川下流河川事務所**	**5月23日 7月18日**
名取川	**仙台河川国道事務所**	**5月30日 6月21日 8月9日**
最上川	山形河川国道事務所 新庄河川事務所 酒田河川国道事務所 最上川ダム統合管理事務所	6月7日 7月2日
北上川（上流）	岩手河川国道事務所 北上川ダム統合管理事務所	6月19日
子吉川	秋田河川国道事務所 鳥海ダム工事事務所	6月21日
岩木川	青森河川国道事務所 岩木川ダム統合管理事務所	7月2日

渇水情報連絡会及びダム利水調整会議状況

■ダム利水調整会議開催状況

※太文字は、渇水対策支部体制設置

ダム名	事務所名	開催日
鳴子ダム	**鳴子ダム管理所**	**5月16日 7月2日 7月17日**
胆沢ダム	北上川ダム統合管理事務所	7月4日
長井ダム	最上川ダム統合管理事務所	6月14日 6月27日
白川ダム		6月25日

＜利水調整会議状況（鳴子ダム）＞

宮城県大崎市にある鳴子ダム管理所では、注意体制以降、ダム下流の利水者と３回（5/16、7/2、7/17）にわたり協議・調整を行いました。
その協議・調整の結果、
■各頭首工での取水制限及び番水の実施
■鳴子ダムからの放流量調節
を行いました。

荒雄湖（鳴子ダム）
（5月27日9時時点　貯水率：33.7%）

荒雄湖（鳴子ダム）
（7月18日9時時点　貯水率：100.0%）

3．渇水対応について（その２）

別紙３

➢ 少雪・少雨の影響により基準流量を下回った３水系（２事務所１ダム）においては、渇水対策支部（注意体制）を設置し、関係機関と連携した渇水対応（毎日の取水報告、利水者による節水、河川監視の強化）を行いました。

■渇水対策支部（注意）体制を設置した事務所の取組

＜北上川下流河川事務所＞

宮城県石巻市にある北上川下流河川事務所では、注意体制以降、**宮城県が管理する「岩堂沢ダム（宮城県大崎市鳴子温泉）」から状況表の報告を受け、関係者へ情報共有**を行い、河川流況を注視しました。

江合川右岸26.0k
（5月23日9時時点　荒雄観測所流量：4.78m3/s）

江合川右岸26.0k
（7月18日9時時点　荒雄観測所流量：7.15m3/s）

＜仙台河川国道事務所＞

宮城県仙台市にある仙台河川国道事務所では、注意体制以降、**河川状況の把握のため**週２回の巡視から**毎日（土日除く）に巡視回数を増やし、大倉ダム（宮城県管理）や利水者（農業用水、工業用水、上水道）からの取水量について毎日報告を受け、情報連絡会構成員に対し情報共有**を行い、**利水者に対し取水量減量の協力依頼**を行いました。

広瀬橋下流
6月17日9時時点
広瀬橋観測所流量：0.42m3/s

広瀬橋下流
7月8日9時時点
広瀬橋観測所流量：0.70m3/s

広瀬橋下流
8月5日9時時点
広瀬橋観測所流量：0.42m3/s

広瀬橋下流
8月29日9時時点
広瀬橋観測所流量：1.36m3/s

■渇水対策体制状況

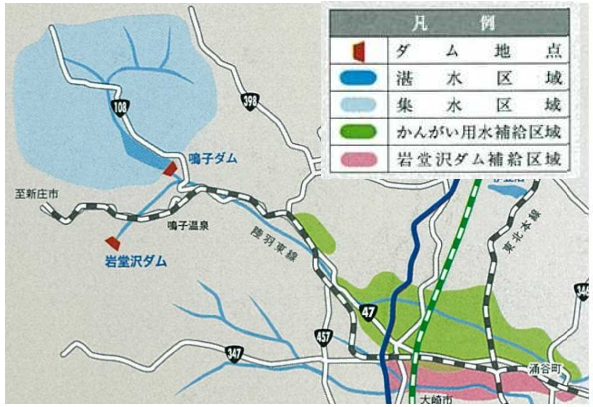
水系名	河川名	事務所名	注意体制	
			設置	解散
＜本部＞		本局	3月14日	9月11日
＜支部＞				
北上川	江合川	北上川下流河川事務所 鳴子ダム管理所	5月23日	7月18日
	旧北上川	北上川下流河川事務所	5月23日	7月18日
鳴瀬川	鳴瀬川		5月23日	7月18日
名取川	広瀬川	仙台河川国道事務所	6月13日	9月11日

渇水対策本部設置から半年、各支部では**市民生活への影響が極力発生しないように関係機関と連携しながら対応を行い、重大な渇水被害は回避されました。**

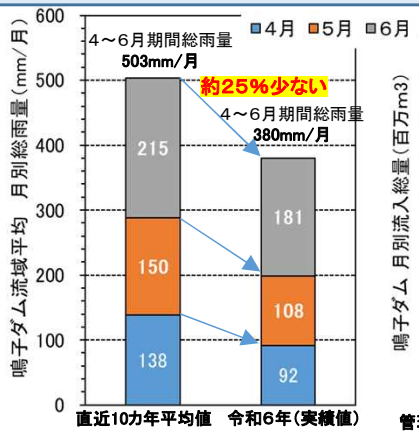
4．鳴子ダムの利水補給状況（渇水対応）

別紙４

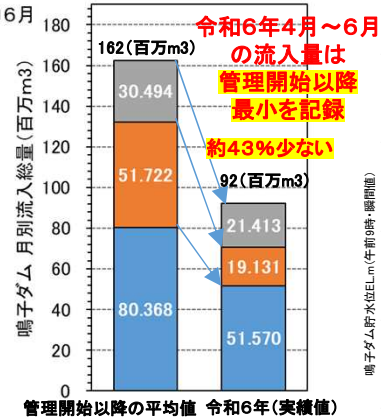
○ 令和6年春季（4～6月）の降水量が例年と比べて約25%少なく、ダムへの流入量は約43%少ない状況でした。
○ 少雨が続く中、大崎耕土における伝統的な水管理（世界農業遺産）で節水（取水制限、番水）を実施。
○ 早い段階から近傍の岩堂沢ダムと連携し、両ダムで放流量の調整を図り、かんがい用水の確保に努めました。
　⇒ 鳴子ダムはR6.4～8月において、かんがい用水量約48百万m³を補給（東京ドーム約39杯分）。
○ 大崎周辺地域（大崎市岩出山・同古川、涌谷町、美里町）約10,000haの水稲の健全な生育に大きく寄与しました。



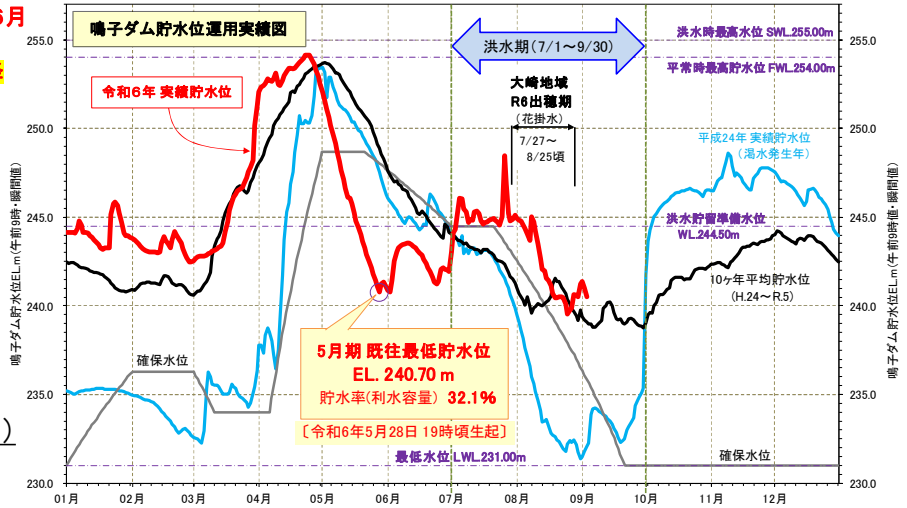
ダム位置図



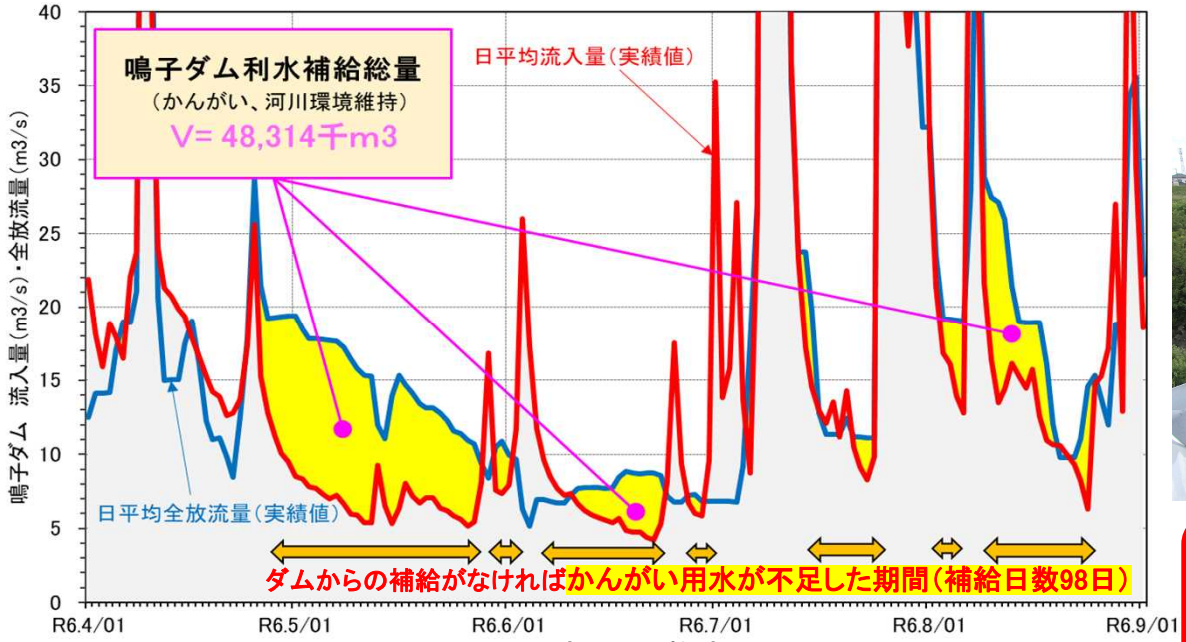
月別総降水量（ダム流域平均）



鳴子ダムの流入量（累積）



鳴子ダム貯水位運用実績図（令和6年）



日平均流入量と放流量

水稲生育状況

【かんがい受益者からの声】 鳴子ダムの適切な利水補給と利水者間調整のお陰で、秋にはおいしい米がたくさん収穫出来そうだ。鳴子ダムがなければ、こうはならなかったと思う。感謝申し上げる。

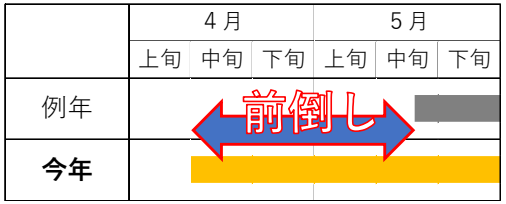
5．農業用水確保のための対応について

別紙５

➢ 春先の水利用を融雪に多く依存する地区では、農業用水が不足するおそれがあったことから柔軟な水利用の対応により、今年のかんがい期を無事に乗り切りました。

国営旭川農業水利事業（雄物川水系）

秋田県横手市にあるあいののダムでは、毎年予め川の水を引き入れて農業用水を蓄えていますが、今年は十分な雪解け水が期待できないことから、**取水期間を１ヶ月余り前倒し**して農業用水を確保しました。



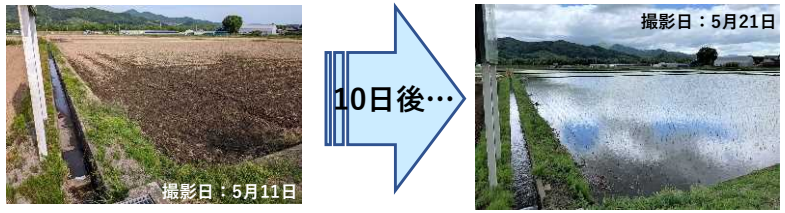
図－１　取水期間

写真－１　取水状況

写真－２　あいののダム

盛岡南部農業水利事業（北上川水系）

岩手県盛岡市・滝沢市にある鹿妻頭首工では、例年5月1日から5月15日までの期間に約14m3/s取水し地区内へ配水していますが、春先以降に高温・少雨傾向が続き、田面の乾燥により用水需要が高まった結果、末端ほ場に用水が到達しない事象が発生したため、**代かき期間を７日間延長**して農業用水を確保しました。



写真－3　末端ほ場の代かき期延長前後の状況

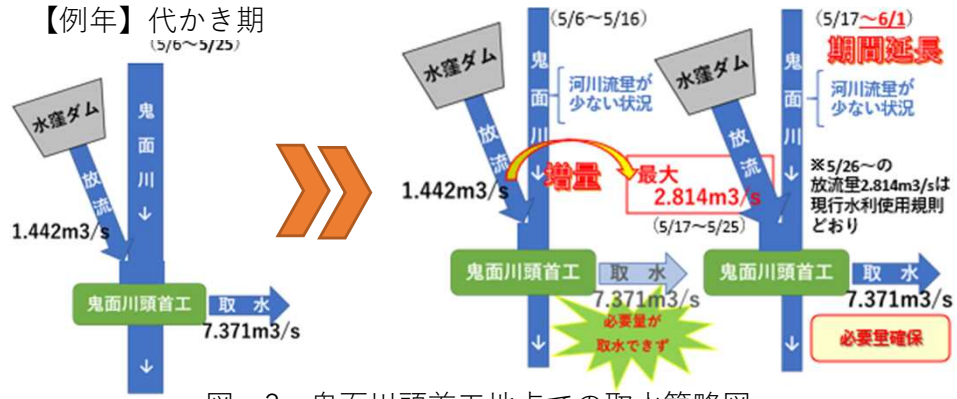
国営村山北部地区かんがい用水（最上川水系）

山形県尾花沢市にある新鶴子ダムでは、例年代かき期においてはダムが満水になり洪水吐から水が流れますが、今年は少雪により満水にならないおそれがあるため、洪水吐から流れない分を**取水塔から増量取水し**農業用水を確保しました。

図－2　新鶴子ダム地点での取水概要

国営米沢平野地区かんがい用水（最上川水系）

山形県米沢市にある水窪ダムでは、少雪及び早い雪解けの影響を受け、下流にある鬼面川（おものがわ）の河川流量が少なく、放流を加えても必要な水量が取水できず、代かき作業に遅れが生じていることから、**放流量を増やし、代かき期間を延長**して農業用水を確保しました。



図－3　鬼面川頭首工地点での取水簡略図